

■相模川・金目川洪水対応訓練の実施について



「水防災意識社会再構築ビジョン」に基づく取組みの一つとして、県管理の金目川と直轄管理の相模川の水位が上昇し、更に土砂災害警戒情報も発令される状況で、国・県・市の防災関係機関が連携した「情報の伝達」や「避難勧告の検討・発令」等の情報伝達訓練を実施しました。(2部屋に分かれて実施)

また、京浜河川事務所及び横浜地方気象台から平塚市長へ避難勧告等を発令する市区町村長に河川の状況を的確に伝えるホットラインを実施し、タイミングや伝達内容の確認を実施しました。訓練後の意見交換では、活発な議論が行われました。

訓練の概要

- 実施日時:平成29年4月27日(木)14時30分～16時30分
- 場 所:平塚市役所
- 参加機関:平塚市、神奈川県(本庁、平塚土木事務所)、横浜地方気象台、京浜河川事務所
- 見学機関:茅ヶ崎市、寒川町、大磯町

京浜河川事務所管内 で初めての取り組み

ホットラインの状況



平塚市長

訓練の状況



意見交換の状況



京浜河川事務所長

■相模川・金目川洪水対応訓練の実施について



各機関から下記の意見や感想がありました。

【参加機関】

●平塚市長

- ・ホットラインで直接やりとりする系統や避難勧告、避難指示のタイミングについて改めて確認できた。
- ・実際にみんなで動いて対応したことが意義のある訓練であった。
- ・平塚市は海、川に囲まれ、水害に対応していかなければならない地域なので、今後ご協力をお願いしたい。

●平塚市災害対策部長

- ・顔をあわせて訓練できたことが有意義であった。実際の時間と訓練の時間が異なるので、本当はもっと細かく指示すべきことがあったと思うが、今回の訓練では時間が短く難しいと感じた。水位に到達したら迷いなく避難勧告を出すという訓練ができたと思う。

●神奈川県

- ・河川課 緊張感を持った訓練を行うことができたので、この取り組みを庁内に伝えていきたい。
- ・平塚土木 非常に緊張感を持って取り組めた。これからの時期に向けて意識できるので良かったと思う。

●横浜地方気象台

- ・土砂災害警戒情報も行ったことで、実際に洪水と一緒に起こりうる災害として一つの気づきがあったのではないかと。

【見学機関】

●寒川町

- ・訓練を拝見して緊張感が沸いた。平成28年度に寒川町も避難勧告を出したが、様々な状況を考えてしまい、判断することの難しさをこの訓練を見て思い出した。

●茅ヶ崎市

- ・見学して大変参考になった。城山ダムの放流状況を確認していたが、情報収集班は潮位も気にしていた。茅ヶ崎市としても確認する必要性を再認識する事が出来た。